磯野秋渚（いそのしゅうしょ）　漢詩人、書家。文久二年八月二十日伊賀國生れ、昭和八年一月二十三日歿（一八六二―一九三三）。諱惟秋、字秋卿、通稱於菟介。別號古歌堂、少白山人、文のや、杏華盦、源惟秋、玉水廬、碧雲仙館主人、碧雲紅葉山房、磯野の千秋、秋の渚主人、秋渚生、秋處士等。薄儒町井谷水心師事。明治十年上阪、小學校の助教を經て大阪朝日新聞社入社。曲村天因、渡邊霞亭等の浪華文學會に關與し、末崎好尚と雑誌『小文壇』發刊。關西漢詩壇の雄、また草書、假名書を能くし、揮毫の石碑も多し。

著書『道の記集』（磯野於菟介名、纂訂、巻一・明治二十一年一月一日、巻二・八月十日大阪・中村正兵衛刊）、『稲狹間』（明治二十二年一月二十五日大阪・玉鳴館「日本史談」）、『ほいほい草』（内題「浪華草」明治二十二年二月八日大阪・生成舍）、『今古歌話』（曲村天因共編、明治二十九年十月十日參文舍・大阪積文社）、『朝日講演集』（合著、明治四十四年十一月十日大阪・朝日新聞合資會社）、『五花戴詠』（大正二年十一月五日大阪・碧雲仙館）、『偶拈』（昭和二年七月十五日愛知・雅聲社）等。